

あまぐらの観光

甘木公園（丸山公園）

秋月の杉の馬場、寺内ダム周辺の桜並木に並ぶ桜の名所です。明治時代以降公園化が進み、ひょうたん型の池や噴水、アスレチック施設が備わり、公園内から大平山へ登る登山ルートも整備されています。

安長寺の「バタバタ市」

創建年代は不明ですが、地誌類には甘木遠江守安長という人が幼いころに疱瘡にかかり、父・安道が奈良の金剛山寺（矢田寺）の地藏尊に快癒を願ったところ病が癒え、この恩返しとして寺院を創建した、と残されています。毎年お正月には「甘木バタバタ市」が開催され、疱瘡避け・子育て祈願のお守りとして豆太鼓（バタバタ）が販売されます。

甘木祇園山笠

七月、須賀神社（祇園社）で斎行される甘木地域最大のお祭りです。江戸時代初期頃、疫病流行に際して神輿をつくり、御神体を遷して町中を練りまわることと疫病退散を祈願したことが始まりとされています。境内には「飾り山」がたち、東西二地区からは「追い山」がだ



され町を走り抜けます。また、無病息災・厄払い祈願として獅子頭をもつて各家々をまわる「獅子入れ」も行われ、獅子に頭を噛んでもらうと一年健やかに過ごすことができると言われています。

甘木歴史資料館

昭和六〇年開館。朝倉市郡の歴史・民俗をテーマにした展示施設です。歴史分野では、平塚川添遺跡出土の木製品や、古代の朝鮮半島とのつながりを想起させる考古資料を中心に展示しています。民俗分野では、一大生産地であった蠶（かいこ）生産の道具類や甘木絞り資料、どこか懐かしい昭和時代の生活道具などを紹介しています。

筑前の小京都 秋月

中世には秋月氏が治め、江戸時代に秋月藩が成立したこの地は、歴史的な町並みと自然が調和し豊かな景観を生んでいることから「筑前の小京都」とも呼ばれています。この町並みを活かし、各所でお雛様を飾



る「古都秋月雛めぐり」（二月～三月）、長屋門での「秋月後の雛」（九月）が開催されています。また、春は杉の馬場の桜、夏は川辺の緑、秋は秋月城跡の紅葉など、四季折々の美しい風景を見ることがするのも魅力の一つです。

朝倉市秋月博物館

平成二九年開館、秋月藩主黒田家の宝物等を収蔵・展示しています。収蔵品の一つである『島原陣図屏風』は島原・天草の乱を題材にしたもので、初代藩主黒田長興（ながもと）の活躍が描かれています。特に「戦闘図」の原城本丸総攻撃の様子は、多くの歴史の教科書に掲載されています。絵画作品では、ピカソ、ルノワール、横山大観、岸田劉生をはじめ、郷土の画家・萩谷巖、大内田茂士の作品も収蔵しています。

平塚川添遺跡公園

弥生時代の集落跡を整備した公園で、園内には遺跡の特徴である多重環濠が復元されています。また、園内の木々は出土資料をもとに弥生時代の植生に合うよう再現しており、園内に入ると、日常とはちがう景観を体験できます。併設する体験学



習館では、火おこしや弓矢体験、勾玉や銅鏡、トンボ玉づくりなどを楽しむことができます。邪馬台国の候補地でもある本市では、観光大使「女王卑弥呼」、マスコットキャラクター「卑弥呼ちゃん」が市内外で活躍しています。

観光プラザ ほとめく館

甘木鉄道甘木駅に併設する観光案内所です。朝倉市はもちろん、近隣市町村の観光情報も広く取り扱っています。レンタサイクルも行っており、自然を満喫しながら自転車の旅も楽しめます。

美奈宜神社

一社は朝倉市林田に所在します。神功皇后が三韓征伐の際に祈願した神様をお祀りするための場所を探していた際、白鷺を放ち舞い降りたところに神社を建てよう決められ、当地に建立されました。また、豪族・羽白熊鷺との戦いで神功皇后が川蜷の一夜城を築いたという伝承から、この一帯を蜷城と呼んでいます。秋季大祭で奉納される「蜷城の獅子舞」は県指定無形民俗文化財です。

一社は朝倉市荷原に在し、神功皇后の熊襲平定を由来とします。幾度か遷座を繰り返し、現地



に遷座したのは秋月種実の時代と伝えられています。一〇月には秋の大祭「三奈木おくんち」が斎行され、御神幸行列（市指定無形民俗文化財）が奉納されます。境内の大イチョウは、黒田一成のお手植えと伝えられています。

あまぎ水の文化村

寺内ダム湖畔に面した、水の大切さや不思議さを学べるテーマパークです。本館前のウォーターパレットは水深が浅く、子どもも大人も一緒に楽しむことができます。寺内ダムとコラボしたライトアップも人気です。

朝倉オートキャンプ場

あまぎ水の文化村と同じく、寺内ダム湖畔に位置するキャンプ場です。美しい美奈宜湖と広大な緑地に囲まれ、春には桜を眺めながらのキャンプも楽しむことができます。

あさくら祭り

朝倉市民の一大イベントで、毎年一月中旬に開催されます。みかんや野菜の詰め放題もさることながら、小ネギを模したレプリカを投げ、飛距離を競う「空飛ぶネギ大会」は特に人気です。昭和五〇年代、朝倉の小ネギは全国に先駆けて「博多万能ねぎ」というブランド名をつけ、首都圏で販売を開始しました。品質保持のため日本で初めてネギの空輸を行ったことから「空飛ぶネギ」とも称されています。空輸に携わる日本航空（JAL）の協力も得て、「空飛

ぶネギ大会」優勝者にはJAL特製景品が進呈されます。

甘木盆俄

甘木盆俄は甘木の祇園社に奉納された風流を起源とし、江戸時代には子どもが踊りを奉納するようになり、やがて街中で野舞台をつくり歌舞伎を演じるように変化しました。毎年一〇月に、甘木盆俄保存会による保存公演が開催されています（市指定無形民俗文化財）。

筑前朝倉煮し雑煮

朝倉市郡で食べられる全国的にも珍しいお雑煮で、お雑煮の具材に卵液を入れ、茶碗蒸しのように蒸して作ります。起源は不詳ですが、江戸時代、鶏卵生産が奨励されたことと、秋月藩の長崎警備で卓袱料理と出会ったことから誕生したと考えられています。令和五年には、文化庁が認める一〇〇年フードに認定されました。

流灌頂法要会 甘木川花火大会

八月、甘木川（小石原川）で行われる流灌頂法要会は、西南戦争の戦没者供養のために始まったとされ、先祖供養・家内安全などを祈願する行事として今日まで続けられています。同日には花火大会が開催され、約四〇〇〇発の花火が夜空に広がります。

